

東洋大学

INFORMATION

2023年4月に2学部を開設予定
東洋大学は2023年4月に新たに「福祉社会デザイン学部」と「健康スポーツ科学部」の2学部を赤羽台キャンパス（東京都北区）に開設を予定しており、現在学部設置届出中です。福祉・健康・スポーツ科学・デザインに関わる教育研究を推進するとともに、情報連携学部や自治体等との連携を図りながら、社会課題の解決に取り組めます。



©Kawasumi・Kobayashi Kenji
Photograph Office

東洋大学では、かねてから学力の3要素のうちの「知識・技能」を、「思考力」や「主体性」を裏付ける「学力」として重視してきた。その考えのもと、英語外部試験利用入試や5教科・4教科型の選抜、文系学部における数学必須入試などを実施。大学で学ぶための基礎力を評価する選抜を行う。

一般選抜の英語外部試験利用者が増加

5教科・4教科型入試など多数科型入試も好調

2014年度より文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（タイプB）」に採択されている東洋大学では、グローバルリーダーの育成をめざし、国際教育を推進している。一般選抜では、一般入試と大学入学共通テスト利用入試のそれぞれにおいて、英語の学力担保として英語外部試験を利用。初めて入試に英語外部試験を取り入れた2017年度の利用者は受験生全体の7.5%に過ぎなかったが、利用者数・利用率は年々上昇し、直近の2022年度では全体の51.2%にまで増加した。こうした選抜状況の変化に伴って、在学生の中には留学など海外プログラムへ意欲を示すものが年々、増えているという。

一般入試、大学入学共通テスト利用入試では、5教科・4教科型の入試を実施しているのも特徴だ。2022年度一般選抜では志願者の10.5%にあたる約1万人が5教科・4教科型入試を受験。この数字は年々、増加傾向にある。同学としては幅広い学力を持つ受験生を受け入れたいという思いがあり、受験生としても国公立大学と併願しやすい形式となっている。

経済学部経済学科の一般選抜における

数学必須入試での入学者の割合は4人中3人に

経済学部経済学科では、入学後に数学を活用する機会が多いことを鑑み、一般選抜において数学を必須とする入試方式を拡大してき

た。その結果、2022年度一般選抜では、数学必須入試での入学者の割合が4人中3人となっている。また、経済学部以外の文系7学部においても、数学必須入試を拡大し、これからの社会に必要な「数理的推論・データ分析力」など、より幅広い学力を有する受験生を受け入れる方針だ。

総合型選抜・学校推薦型選抜では、学力の3要素を

従来以上にバランスよく評価する予定

総合型選抜や学校推薦型選抜ではこれまで、面接や課題論文の提出に加え、一部の学科では10分程度のプレゼンテーションや質疑応答、英語外部試験のスコアや資格取得などを評価する選抜を実施してきた。今後も、学びに合わせたテーマでディベートを行う選抜を実施するなど、学部・学科のアドミッション・ポリシーに合致する人材の受け入れをめざして、独自の手法で「学力（知識・技能）」「思考力」「主体性」などをバランスよく評価していく方針だ。

就労しながら通学する学生向けの

特別な推薦入試も例年通りに実施

推薦書への学力の3要素に関する評価の記載を必須化し、選抜においても各要素をバランスよく評価する方針。また、日中は同学白山キャンパス内の大学事務局などで就労しながら通学する学生を募る「独立自活」支援推薦入試も例年通りに実施。

期待する受験生像

東洋大学の入学選抜は、「学力（知識・技能）重視」が大前提です。「学力（知識・技能）」は身についた「思考力」や「主体性」を裏付けるものであり、日々努力を続けてきた成果だと考えられるからです。英語外部試験のスコア利用や数学必須入試を導入しているのは、まさにそうした学力を評価するためであり、それが本学の教育方針とも合致しています。本学では、これからも受験生の高校時代の努力を公平かつ正当に評価する選抜を実施し、受験生にメッセージが伝わるように、より成熟した形で運用していきたいと考えています。



入試部 部長
加藤 建二